IX Mostra Internazionale di Architettura
La Biennale di Venezia
Luogo: Padiglione Giappone, Giardini della Biennale
Apertura al pubblico: 12 settembre - 7 novembre 2004
Orario: tutti i giorni dalle 10 alle 18

Commissario:
MORIKAWA Kaichiro
Artisti:
TANGE Kenzo
OKADA Toshio
KAIYODO
OOSHIMA Yuuki
SAITO Tamaki
KAIHATSU Yoshiaki
COMIC MARKET Committee
SEON Jeong-U
YOTUBA SUTAZIO

Con il contributo di:
Sumitomo Chemical Co., Ltd.
Korea Culture & Contents Agency
Canon Inc.
Animate Co.
Ezaki Glico Co., Ltd.
Nexon Co., Ltd.
Japan Airlines
Harmo
Mitsubishi Estate Co., Ltd.
Chiyoda City, City Development Promotion Department

Organizzazione:
The Japan Foundation

METAMORPH
9. MOSTRA INTERNAZIONALE DI ARCHITETTURA
la Biennale di Venezia

persona 人格 personalità
=
space 空間 spazio
=
city 都市 città

おたく

文化庁メディア芸術祭協賛事業／ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館帰国展
Global Media 2005 ／ OTAKU: persona=space=city

緊急帰国展!!!

グローバルメディア2005／おたく：人格＝空間＝都市

2005年2月5日(土)～3月13日(日)：前期＝2月5日(土)～20日(日)「GM2005 ― 新しいヒトへ」 *前期は「おたく」展は予告展示となります

後期＝**2月22日(火)～3月13日(日)**「おたく：人格＝空間＝都市」

会場＝**東京都写真美術館**
地下1階映像展示室
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3
恵比寿ガーデンプレイス内
URL: www.syabi.com
TEL: 03-3280-0099

開館時間＝午前10時～午後6時（木・金は夜8時まで／入館は閉館の30分前まで）
休館日＝毎週月曜日（ただし2月28日は開館）
観覧料＝一般300(240)円／学生250(200)円／中高生・65歳以上150(120)円
*( )内は20名以上の団体　*東京都写真美術館友の会会員／小学生以下／障害をお持ちの方とその介護者2名まで／第3水曜日に観覧する65歳以上は無料

参加作家（GM2005）＝宮島達男＋立花ハジメ／NEtROBOt Project／Ars Electronica2004 "the next idea"（Moony＋Sinktop＋Visual Resonator）
（おたく：人格＝空間＝都市）＝丹下健三／岡田斗司夫／海洋堂／大嶋優木／斎藤環／開発好明／コミックマーケット準備会／宣政佑／よつばスタジオ

主催＝東京都／東京都写真美術館／独立行政法人 国際交流基金（ジャパンファウンデーション）
協力＝CG-ARTS協会／株式会社ティー・ジー・エイ／株式会社フォトン／日本ヒューレット・パッカード株式会社／大日本印刷株式会社／みつわ印刷株式会社／ピーディティ株式会社／株式会社デジタルスケープ／インターサイエンス株式会社／株式会社NHKテクニカルサービス／シャープ株式会社／シリコンスタジオ株式会社／プロサイド株式会社／3Dコンソーシアム／ソニー株式会社／中京テレビ放送株式会社／株式会社ナムコ／クリエイティブクラスター／マクロメディア株式会社／株式会社イーケイジャパン　ほか　Technology By Apple
展示協力（ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館）＝住友化学工業株式会社／韓国文化コンテンツ振興院／キヤノン株式会社／株式会社アニメイト／ネクソン／株式会社日本航空インターナショナル／ハルモージュ／三菱地所株式会社／千代田区まちづくり推進部
特別協力＝ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館再現展実行委員会

JAPANFOUNDATION

グローバルメディア2005／おたく：人格＝空間＝都市

Global Media 2005／OTAKU：persona＝space＝city

東京都写真美術館・映像工夫館展では、国際交流基金／NHKエンタープライズ21の共催を得て、海外で活躍する日本人作家紹介・新人発掘を行う「グローバルメディア」展第3回を開催いたします。今回は、科学と芸術の融合領域に挑戦するメディアアートなどの作り手によるSIGGRAPHやArs Electronica25周年受賞作品に加え、話題を呼んだヴェネチア・ビエンナーレ第9回国際建築展日本館「おたく：空間＝人格＝都市」の再現展示を行います。また、会期中に開催される第8回文化庁メディア芸術祭との連携をはかります。この貴重な機会を通して、海外で評価される日本発の創作活動を紹介・参加体験できる拠点を目指しつつ、ますますエマージングな展開を見せる領域を探ることができれば幸いです。本展開催にあたり、多大なご協力をいただきました「おたく」展関係各位・GM展協力機関・個人の皆様に心より深謝の意を表明いたします。

主催者

10年を超える映像工夫館展の試みの結びとなる本企画は、国際交流基金・岡部美紀氏、NHKエンタープライズ21丸山昌幸氏らの多大な協力のもと、第9回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館コミッショナー森川嘉一郎氏をおたく展キュレーターに迎えて実現された。海外で下される従来通りの内在的感性の評価から逸脱をはかる日本の作家たちが苦戦する一方で、若い作り手たちは新たな可能性を拡張しつつある。本展にみる「おたく」をはじめとする所謂「ハイ・アート」を超えた境地に存在する感覚・知覚のありかたには、新たな10年に向け確固たる「場」の生成が求められている。

森山朋絵（東京都写真美術館学芸員）

Tomoe Moriyama, Curator, Ars Electronica2003/04/05 jury

●作品上映「Flash Evolution」／キット公募「E+Kitプロジェクト」ほか公募・上映

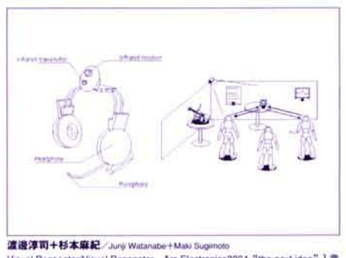
*BankART Yokohama「エヴォリューションカフェ」展公募企画との連携を行います
*10周年映像展「超ヴィジュアル―映像・知覚の未来学」（2005年4月30日―6月19日）等で発表予定
協力＝マクロメディア株式会社／株式会社イーケイジャパン／クリエイティブクラスター　ほか
http://coolstates.com/evolution/

宮島達男＋立花ハジメ
／Tatsuo Miyajima＋Hajime Tachibana
1000 Deathclock in Paris/1000 Deathclock in Paris Ars Electronica2004 Interactive Art 部門入賞
名前、生きてきた時間、死までの残り時間を入力すると1/10Sec.のカウントアップ／ダウンがプロジェクションされ、会場とグローバルなネット上をリアルタイムに結んで展開されるインスタレーション。エントリー情報とリンクしたRFID Tagカードを通して、新たなローカルネットワークも形成される。
http://www.1000inparis.net/

渡邊英徳／Hidenori Watanave
NEtROBOt Project/NEtROBOt Project　SIGGRAPH2004 Web Graphics部門入賞　※AIBOは株式会社ソニーの登録商標です
「非同時」をテーマに活動を展開する渡邊英徳ら（株）フォトンのメンバーや、ロボット研究者深野暁雄らを中心とするネットロボット・プロジェクト。メディア芸術祭会場、WEBや携帯電話とも連動し、ロボットを媒介にした「時空間を超えるダンスと音楽のセッション」が実現する。
http://netaibo.jp/

NETROBOT

柴田知司＋神里雄大＋真下武久／Satoshi Shibata＋Akio Kamisato＋Takehisa Mashimo
Moony/Moony　Ars Electronica2004 "the next idea" 受賞



渡邊淳司＋杉本麻紀／Junji Watanabe＋Maki Sugimoto
Visual Resonator/Visual Resonator　Ars Electronica2004 "the next idea" 入賞

Ars Electronica2004 the next ideaより／From Ars Electronica2004 "the next idea"
霧に投影された蝶が見る者に反応して舞う「Moony」、高度なIT化社会を風刺するかのようなマウス・コントロール・キッチンシステム「Sinktop」、見つめる対象の音だけが聞こえてくるという知覚実験「Visual Resonator」など日本の大学院生チーム（●IAMAS ●早稲田大学 ●東京大学＋電気通信大学）作品が25周年記念式典に登場し、フューチャーラボ展示で人気を集め、審査員を笑わせ、アルス新人部門を席巻した。
協力＝Ars Electronica Center

中田裕士＋吉田知史／Yuji Nakada＋Tomofumi Yoshida
SINKTOP／Sinktop　Ars Electronica2004 "the next idea" 入賞

主催＝東京都／東京都写真美術館　共催＝国際交流基金／NHKエンタープライズ21　制作＝東京都写真美術館／NHKエンタープライズ21　編集＝東京都写真美術館［森山朋絵＋神保京子］＋独立行政法人 国際交流基金（ジャパンファウンデーション）［大嶋厚

Padiglione Giappone
9. Mostra Internazionale di Architettura
La Biennale di Venezia

OTAKU
personalità = spazio = città

Japanese Pavilion
The 9th International Architecture Exhibition
The Biennale of Venice

OTAKU
persona = space = city

ヴェネチア・ビエンナーレ
第9回国際建築展・日本館

おたく
人格＝空間＝都市

コミッショナー
森川嘉一郎

参加作家
丹下健三　（建築家）
岡田斗司夫　（作家）
海洋堂　（造形企画制作）
大嶋優木　（原型師）
斎藤環　（精神科医）
開発好明　（美術家）
コミックマーケット準備会
宣政佑（漫画企画会社代表・漫画コラムニスト）
よつばスタジオ　（デザイン制作）

photos & text : Kaichiro Morikawa

©shinkenchiku-sha
Expo '70（丹下健三）

おたくの個室（斎藤環＋開発好明）

コミックマーケット（コミックマーケット準備会）

レンタルショーケース

©Nexon Corporation. Developed by devCAT
おたくのオンライン・コミュニティ（宣政佑）

秋葉原

本展示では、おたくの個室、数十万人が集うコミックマーケット、秋葉原の都市空間、さらにはネット空間などが、連続した箱庭として再現される。そこは情報化時代の建築空間としてしばしば思い描かれてきたような、無色透明な浮遊空間などではない。各々が物語のオーラをまとったアニメ絵の無数の聖像（イコン）が、内外の壁、床、そして画面を、汎神的に構成している。

近代様式の移植にともなって「いかもの」として抑圧され続けてきた偶像や聖像が、八百万の神々のように立ち現れ、流通し、コミックマーケットや秋葉原が"聖地"として巡礼される。喪われて久しいとされる都市的な祝祭空間と壮大なポトラッチが、そこには脈々と生きている。

おたく趣味は漫画、アニメ、ゲームなど、メディア横断的な特徴を持っており、また日本の現代文化としては例外的に海外に越境し得ている。これはおたく趣味が、特有の自意識とセクシュアリティをベースにしていることと関係している。これまで、国家や民族、宗教やイデオロギーなどをベースにした文化圏は多々あったが、人格をベースにしたものはなかった。この、都市をも変える新たなる構造としての「人格」の浮上は、環境の情報化と密接に絡んでおり、資本とはまた違ったパターンで、容易に旧来の境界を越境し、場を形成する。日本館に「おたく館」という代替館名を掲げたゆえんである。

〈おたく〉を、商品や作品としてではなく、その人格を起点とした横断的概念として、展示を通して提示するものである。

関連事業「GM／おたく展関連フォーラム」
日時＝3月11日（金）18時30分～20時
会場＝東京都写真美術館1階ホール
入場無料・定員190名（先着順）
出演予定＝磯崎新（建築家）・森川嘉一郎（第9回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館コミッショナー）ほか・予定

新横浜ありなIIアキハバラ（大嶋優木＋海洋堂）

http://www.jpf.go.jp/venezia-biennale/otaku/

岡部美紀］＋NHKエンタープライズ21［丸山昌幸］＋森川嘉一郎（ヴェネチア・ビエンナーレ第9回国際建築展日本館コミッショナー）　デザイン・印刷＝みつわ印刷株式会社　発行＝財団法人東京都歴史文化財団　東京都写真美術館
©2005 printed in Japan